

昔、ある小学校で、生徒たちの間で「おはよう・こんにちは・ありがとう」などの挨拶^{あいさつ}をちゃんと言わず、ふざけてダジャレで言うことが流行^{はや}りました。

それは、友達同士で使うだけで止^{とど}まらず、親や先生にさえも使うようにもなってゆき、親や先生が注意してもなかなか止^やめず、ダジャレを使ったあいさつが流行中、ある朝、校長先生^{ちやうれい}が朝礼の際、こう話しました。

「最近、皆さんの間で『おはよう・こんにちは・ありがとう』などの挨拶をダジャレで言うことが流行っているようで、私も言われてびっくりしてしまいました。私は、ダジャレがいけないとは、いいません。

ただ、挨拶は挨拶としてちゃんと行いましょう。挨拶というのは、礼儀としても大事な事ですし、皆さんにはまだ難しいかもしれませんが、皆さんが人と向き合いつながっていくためにも大事な事なのですから。」

その日から少しずつですが、ちゃんと挨拶をする生徒が増えていきました。

挨拶という言葉は、元々は挨^{あい}拶^{さつ}も「押す・迫る」という意味で、禅宗では、僧侶が禅の問答をかわして、相手の悟りの深さ浅さを試みることをいいます。相手と向き合い言葉を交わして相手の事を知るという事です。

一般には、出会いや別れの時の親愛の気持ちを表す言葉や動作のことを言います。

私達は人と会うと、「おはよう」「こんにちは」「さようなら」「ありがとう」などの挨拶を交わします。

挨拶とは、礼儀やマナーだからするという事だけではなく、人と人がお互いにその人と向き合い、つながっていることを確認し、更に新しくつながっていく出発点になると思います。

私達は、親しい人とたとえ離れて暮らしているとしても、電話をしたり、メールや手紙を送ったりします。家族や友人・職場や近所の方など多くの人と関わりを持って生きています。

どんな形であれ、誰かと接して生活をしているのです。挨拶をする事によって円満な関係を作るきっかけともなるのです。

人と人とのつながりを大事にしていくためにも、その日その日に出会う方達と気持ちの良い挨拶をしていきたいものです。